

# 嘘も事実、日本の「罪」を喧伝する韓国



シリーズ

日本が危ない!

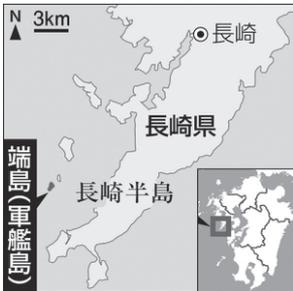
## 韓国で「軍艦島」映画化 ホロコースト想起の反日映画

長崎県・端島を描いた韓国映画「軍艦島」が話題になっている。軍艦島は端島の別名で、映画の宣伝文句は「1945年、日帝占領期、われわれはそこを地獄島と呼んだ」となっている。徴用された朝鮮人たちが「生命を賭して脱出を試みる」という内容だ。

映画では、腰すら伸ばせぬような狭い炭坑で体を縮ませたまま採掘作業をする朝鮮人の少年たち、ガス爆発の危険にさらされながら作業をする人たちの姿がスクリーンいっぱいに映り、こここの出来事を記憶する朝鮮人たちは一人たりとも残してはいけない」との日本語のせりふが流れる。ナチス・ドイツによるホロコーストをイメージさせる強烈な反日映画である。

なぜこのような映画が公開されるのか。そこには文科省や外務省の過度な韓国側への配慮も背景にある。

端島は高い護岸で囲まれ、島内の煙突から煙が出る様子が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれるようになった。良質の製鉄用原料炭を産出し、我が国の近代工業を支える炭坑となった。



このため、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の世界遺産に登録された「明治日本の産業遺産」の一つとして選ばれた。

島内には、従業員のための住宅建設も行われ、1916年には日本で最初の鉄筋コンクリート造りの高層アパートが建設された。日本の近代化を象徴する島であるが、世界遺産登録に反対したのが韓国だった。

映画監督の柳昇完は公開前の記者会見でこの映画を作るきっかけについて「2015年のことだ。軍艦島の写真を見たとき、これは何だ。人が住むところかと、非常に奇怪なイメージに圧倒され、島に関する物語を聞いてから頭から離れなかった。そしてそこに朝鮮の人がいたというところで、そこにいた人々に対する好奇心が沸いた」と語っている。

朝鮮人400人あまりが集団脱出を試みることがストーリーの中心となっている。それは創作であるが「海底1000メートルまで降りて石炭を採取したなど、ベースになっているものは事実である」と柳は語る。朝日新聞記者から「映画が公開されたら、日韓関係が悪化する」との懸念はないか」との質問が出された。柳は「隣国である日本との関係が改善されることを望んでいるが、指摘すべきことは指摘

し、解決すべきことは解決して進むべきだ」と強調した。

## 強制連行・労働は事実無根 決着済みの徴用工補償問題

柳をはじめ韓国側は朝鮮人が「強制連行」され、「強制労働」させられたと位置付けているが、これは事実ではない。当時、日本政府は国民徴用令という法令に基づいて、日本国籍を有する日本人の徴用を行った。国際法では「強制労働に関する条約」で強制労働を禁じていたが、戦争を含む緊急の場合は例外事項として規定していた。日本政府はこの条項を踏まえて、同法令に基づいて徴用を実施したのであって、国際法違反ではなかった。つまり、徴用とは戦

日韓合意をめぐっての最近の主な動き	内容
平成27年	11月 3年6カ月ぶりに日韓首脳会議
28年	12月 慰安婦問題に関する日韓合意
29年	3月 日韓首脳会議で日韓合意の進捗実態を確認
6月	初の日米韓3カ国サミット(釜山)開催
7月	韓国政府が日韓合意に基づき、元慰安婦を支援する財団(和解・癒やし財団)を設立
8月	日本政府が慰安婦への10億円拠出を決定
10月	朴槿恵大統領(当時)の友人による国政介入疑惑が発覚
11月	日韓事情情報包括保護協定(GSOMIA)に署名
12月	韓国国会で朴氏の弾劾訴追案が可決
29年	1月 日本政府が長崎安政駐韓大使らの一掃韓国など慰安婦像設置への対応措置を決定
3月	韓国憲法裁判所が朴氏弾劾を決定、失職
4月	初の日米韓3カ国サミット開催
5月	文在寅氏が大統領選に勝利、就任。安倍晋三首相と電話会談
6月	文氏が米紙インタビューで日本に「謝罪求める」

時期の国民に課せられた義務であり、当時は朝鮮人も日本国民であったため、あくまで合法的であったというわけだ。

反日で知られ、現大統領、文在寅が仕えた元韓国大統領、盧武鉉でさえ、慰安婦問題、サハリンに残された韓国人、被ばくは1965年の日韓請求権協定の範囲外と主張したが、徴用工問題については「請求権協定で日本から受け取った無償3億ドルは(中略)強制動員被害補償問題解決の性格の資金等が包括的に勘案されている」として、事実上、決着済みと「認定」した。

ところが、韓国の最高裁判所は2012年5月、日本が65年の日韓請求権協定で植民地支配の違法性を認めなかったことを問題視し、個人請求権の消滅に関しては日韓両国が一致していたとみる十分な根拠はないとして、請求権は有効とみなす判決を下した。この判決を受けて徴用された韓国人に未払い資金などの支払いを命じる判決が相次いだ。

まったく不当な判決だが、徴用工問題に詳しい専門家は「韓国の最高裁に知恵をつけたのは日本の学者だ」と語る。日本国内に元徴用工裁判を支援する団体も存在し、日韓が連携して「反日」活動を展開している。そうした彼らの「努力」の結果、間違った認識がドイツにも広がっている。

南ドイツ新聞は2015年7月6日付(電子版)で、端島について①大戦中、日本人労働者は安全な場所に移され、中国と韓国の強制労働者に代わった②彼らの1千人以上が死亡した③死体は海か廃坑に投げ入れられたと報じた。韓国、ドイツには軍艦島をナチス・ドイツによるホロコーストと比べようとする向きがあるが、報道はそれをなぞったものといえる。日島民からなる「真実の歴史を追求する端島市民の会」は抗議文を送ったが、同社は訂正に応じなかった。

## 文科省は世界遺産反対 菅裁定で一括登録成功

民間団体だけでない。端島の世界遺産登録に反対したのは日本政府やその周辺にもいた。その代表が文科省だ。元文科官僚で文化庁文化部長も兼任した寺脇研は、朝日新聞のインタビュー(15年7月15日付)で、「世界遺産は世界中か



明治産業遺産として世界遺産に登録された端島(軍艦島)。韓国映画では、演出によって事実を歪曲し、あたかも真実のように日本の「罪」をでっち上げ、世界に喧伝する。

ら反対されないものがあるべきです。(中略)嫌な国があるのに進める必要はあったのでしょうか」と述べ、端島など明治産業遺産の登録に反対する考えを示した。

寺脇は韓国が登録に反対したことについて「徴用工の働いていた歴史的事実にこだわるのはある意味無理もないと思う」と理解を示した。寺脇は広島県教育長だったとき、原爆ドームの世界遺産登録に関与したが、このとき米国や中国が反対した。寺脇は「戦争を二度と繰り返さないことを訴える負の遺産の設定には別の意味がある」と述べ、ダブルスタンダードではないとした。

世界遺産への登録をめぐる、文科省・文化庁は当時、明治産業遺産ではなく、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を推薦候補として決定していた。これに対し、内閣官房に設置された有識者会議は明治産業遺産を推薦候補とすべきと主張し、両者は対立した。最終的に官房長官、菅義偉の裁定で明治産業遺産が政府推薦に選ばれた。ユネスコの審査で、明治産業遺産は世界遺産に登録された。しかも、どれ一つ脱落することなく一括での登録となった。内閣官房側の完全勝利である。寺脇や前文科学事務次官の前川喜平は一敗地にまみれたことが悔しいようで、学校法人「加計学園」の問題をめぐる、反政府の立場を鮮明にしている一因となっている。

この問題に限らず、文科省には韓国や中国に過度な配慮をするケースが多い。高校の教科書ではいまだに検定済でも「強制連行」の文言が目立つ。

## 慰安婦合意を棚に上げ 情報センター設置求める

文科省だけでなく、外務省も登録に際し、韓国側の反対運動の前に「信じがたくも不条理な妥協」(ジャーナリストの櫻井よしこ)をした。明治時代とは時代も違い、事実とは異なるにもかかわらず、朝鮮半島の人々が意に反して(against their will)、「forced to work」(働かされた)と表明し、そのことを記憶し続けるために「情報センターを設置する」と約束したのだ。この「forced to work」は日韓外相会談で、当時の韓国外相、尹炳世が盛り込むことを強く求め、外相、岸田文雄が応じたものだ。

日本政府は「情報センター」の設置の準備を進めているが、韓国外務省当局者は「何も明確な措置が取られておらず、残念だ。日本は12月1日までに履行の経過報告書を出すことになっているが、残された時間はあまりない(聯合ニュースより)と批判した。さらに「韓日関係がさらに悪化しないよう日本が国際社会に向けて行った約束を履行することが重要だ」とまで言い切った。

もっとも、事実と異なる情報を発信し、

「日韓関係を悪化」させようとしているのは韓国の方だ。日本政府が韓国の前政権との間で結んだ慰安婦合意に関しては、国民に受け入れられていないとして、再交渉を求める声が韓国政府内にある。

## 映画「軍艦島」の写真別物 「演出」が独り歩き「事実」に

徴用工問題でも、映画『軍艦島』だけでなく、韓国MBCテレビなどは、軍艦島を紹介する番組のなかで、島とは異なる場所で撮られた写真を使った。たとえば、黒ずんだ労働者たちが並んで立つ写真は番組では「強制徴用された韓国人被害者」と紹介した。ところが、ここに写っているのは朝鮮人ではない。この写真は1915年9月に、当時北海道で発行されていた旭川新聞が道路建設工事現場での虐殺致死事件を報じた際に使われたもので、記事には朝鮮人の存在をうかがわせる記述はなかった。露天掘りの模様を写した写真も使われているが、これは福岡県の貝島炭坑であり、端島ではない。さらに、男性が狭い坑道で横になって掘っている写真も使われているが、これも明治中期の筑豊炭坑の様子を写したもので、これも端島ではない。

極め付きが炭坑の内部から「腹が減った」「故郷に帰りたい」「お母さんに会いたい」とハングルで書かれた落書きが発見されたことだ。だが、この「落書き」は昭和40年に朝鮮総連傘下の団体が制作した映画で、筑豊炭坑で働く朝鮮人労働者を描いた際、演出性を高めるために映画スタッフが書いたものであることが平成12年1月3日付の西日本新聞で報じられている。

元スタッフは同紙の取材に対して「強制連行には映像資料が少ないでしょ。監督が(「連行されてきた人々の」思いがあったほうがいいんじゃないか)と述べた」と、落書きが書かれた経緯を証言した。

映画を制作するうえで「演出」がいつも間に「事実」として独り歩きし、そして、「朝鮮人たちが強制動員され、奴隷のように扱われた」という報道につながる。MBCだけでなく他のテレビ局も黒ずんだ男たちの写真を使っている。あげくのはてには釜山にある「国立日帝強制動員歴史館」にもこの黒ずんだ男たちの写真が大きく展示されている。この歴史館の目的は「日本によって行われた強制動員の惨状を国民に広く知らしめ、正しい歴史認識を鼓吹し、人権と世界平和に対する国民教育の場を促進する」ことという。

うそでもあたかも「事実」であるかのように吹聴し、日本の「罪」を世界に喧伝する韓国、そしてそれに反論するのはいなく、むしろ先手を打って一部の日本の官僚たち。放置していくと日本の名誉は永遠に貶められ続けることになる。(敬称略)